

令和 5 年度実証実験サポート事業 課題提案票

テーマ 28

事業系ごみ（使用済紙おむつ）の再資源化技術について

1. 解決したい課題の内容

・本市は、ごみの減量及び資源化に市を挙げて取り組んできた。2013 年の全市統一の指定ごみ袋制度導入をはじめ、2018 年から 2020 年の 2 年間には、自治会や学校と連携し「ごみ減量天下取り大作戦」と題した全市的な啓発キャンペーンを実施したが、十分な市民への意識浸透に至らなかった。

・2022 年 3 月に浜松市一般廃棄物処理基本計画を改定（以下、「改定計画」という。）し、家庭系・事業系両方のごみ減量・資源化に向けた取組を推進することとした。

・2021 年度、本市の可燃ごみに含まれる使用済紙おむつ排出量は、一般家庭由来で 12,000 t 程度（8.9%）、事業者由来で 4,500 t 程度（6.6%）あるものと推計されており、可燃ごみの減量・資源化にとって、大きなポテンシャルを持っている。

・現在、国内では、使用済紙おむつの処理方法は焼却又は埋立となっている。一般廃棄物に含まれる使用済紙おむつの状況は、以下のとおり。

2005 年度…4.3%～4.8%（実績） → 2030 年度 6.6%～7.1%（推計）

・使用済紙おむつは、ペレット（燃料材）やパルプ等へのリサイクルが可能であり、全国的に見ても、その技術確立と普及が待たれるところである。

2. 実現したい目標について

・改定計画では、2020 年度を基準年度として 2028 年度までに、ごみ総排出量を 21,323t 削減し 193,055 t 以下、資源化率を 5.5%増加させ 30.2%以上、最終処分量を 1,585t 削減し 11,583 t 以下、とする目標を掲げており、発生抑制策に加え、今後、資源化施策の促進が必要である。

・可燃ごみの減量と同時に、資源化率の向上を目指す本市は、大きな減量ポテンシャルを持つ使用済紙おむつの資源化技術について大きな関心を寄せている。

3. 必要とする技術について

・ごみの減量・資源化に資することとなる使用済紙おむつの再資源化技術であって、2 の目標達成に資するもの。一例として、紙おむつの素材の分離技術や効率的な洗浄技術など。

4. 想定する実証実験（内容・希望時期等）について

・内容及び時期については、提案者と別途調整するが、分別収集などの課題が少ない事業者由来の事業系使用済紙おむつを主な対象とする。

5. 課題に関連する事業のホームページ URL

- ・「浜松市一般廃棄物処理基本計画（概要版）」

https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/documents/14283/ippaikeikaku_gaiyouban.pdf

- ・「わたしがやらなきゃごみ減量！ SDGs へのスタート」トップページ

<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/gomigen/gomi/genryou/tennkatoridaisakusenn.html>